

ポーっとしにおいて。

GRAND SLUM 19は今度の土日。

12/6・7 豊洲文化センターにて

湾岸WIT

<http://www3.to/wanganwit>

ういっと東京本部

(ういっと東京新聞Z1) <http://www.ad.wakwak.com/~nikochan/>

しばらくです。生きてることに感謝! 2003.12.3

W.I.T. クリスマス合同企画 風月花32

GRAND SLUM 19

12/6(SAT) 7(SUN) 豊洲文化センター 第2会議室(地下1階)にて

有楽町線豊洲駅下車、豊洲図書館の下です。

風月花32

Who a Maon 風月花32アマチュア音楽会

～ 小説テーマソング集 ～

6日 17:30～

7日 13:30～&17:30～

W. I. T.

TOKYO WANGAN WIT

「ニコ先生の講演会 in セキュリティホール
もー、うっ、どうしよう!!!」

「ニコ先生、深刻なセキュリティホールにはどうやって行ったらいいのでしょうか?」「奥さん…」

* 誰も知らない営業の田中

「…あの礼儀正しい人誰?」「知らないの?営業の田中よ」

* 夜間中学戦隊 五無参上。

生まれも歳も全然違う同じ名前の5人の末っ子が出逢ったのは…

* 疲労嶋あーぷ三人の勇者

土龍ケンジロウ、センター・野方、漢・萬田が今シーズンを語る

* ういっとのうたのじかん!? 他

うたって今年なんかつくったっけ?え?ぎょう虫のうた!?

6日 19:00～

7日 15:00～

& 19:00～

出演

しなやかしなちゃん

てんこ

ガーギー木村

入場無料・差入れ歓迎・又有憩う～

出演

暮羽 仁 (くれじん)

竹内 佐智江(こけちゃん)

吉岡 直美 (なおちゃん)



カープは今年も優勝を逃がしてしまった。

…って言うか、今年は阪神の阪神による阪神のための年だったので、メディアから他球団からこぞって阪神を後押ししたって感じだったので、仕方ない、仕方ないって言うのもなんだかなあ……

来年はみんなでカープを後押し、なんてないだろうなあ…でもやっぱり優勝して、金本を日本シリーズ中継のゲストに呼んでやりたいとこだよな。江藤もしょーがないから呼んでやるか。で、解説は川口か!?

今年はユニを買いまして(っていうか、芝居で使う用だったので「いい身のこなし、さすがは便利屋」のキムラ [0] ユニなんです)、あちこちへ着て行ったりもしました。

球場に着て行くのはまあ普通で、今ってユニ着ての応援がすごく多いよね。カープがまだ強かったバブル期と比べ、市民球場の客の入りは明らかに減り、全体的な消費も落ちてはるはずなのに、ユニは増えたよな。

応援スタイルが変わってきたのもあると思うけど=弱くなったせい?で「強いカープを応援する」から「応援するのが楽しい」に。

賛否いい悪い両面あるけど、野球場に行って観戦・応援するのは気持ちいいよね。勝ってる時に限らず、試合が負けちゃっても。市民球場に限らず、神宮でも。

昔の俺だったら、負けたら許せなかったし楽しいと思っただけ全部吹っ飛んでたけど、大人になったのが、弱いのに慣れたのか……

神宮のカープファンはすごく熱くて、なんて言うか、濃いです。聖地から遠く離れて、年に何回かしか来ないカープが来るぞ来るぞ来るぞ来たぞ来たきたーッ!!!って感じ。

今年は結局神宮で4試合観ました。2勝2敗。

開幕戦と最終戦、頭と締めをしっかりと見ました。

開幕はよかったんだけどね……(書いたっけ?)

締めが締まりがないっつーか、「チーン、終了」って感じ。完璧にラミレスの引き立て役。ラミレスが打席に入るとカープファンまでホームランボール狙いで寄ってくんだもん。さすがにそれを見て嘆いていたカープファンもそれなりいたけど。

…最終戦の時点で、既に5位確定、緒方の3割30本ぐらいしか目標がなくなっちゃってたからね。

始めと終わり以外は、

お盆の時期に神宮で2試合と市民球場で2試合。

神宮の2試合はすごかった。

最初の試合がいきなり2回にシーツ・前田の連続HR。5回にもシーツと野村にHRが出て、打棒爆発! だったのですが、その裏先発ブロックの不調と守備の乱れもあって逆転を食らってしまい、そのまま負けエ。

～前田様の貴重な産卵シーン、あれは痛かった。

(ケツの下からボールがポロリ…)～

次の試合は逆に、ずっとリードを許す展開だった。

春先あんなに調子もよくツキもあった高橋建が、後半戦はどうも踏ん張れず、7回3失点で降板。

打線も新人高井の前に振るわず緒方の一発だけに抑えられ、敗色濃厚だったが、ストッパー高津から、シーツが起死回生の同点2ラン!!

そして延長12回、浅井のヒットを皮きりにチャンスを作ると、代打・廣瀬が内野の頭をフラフラッと越える幸運なタイムリーでついに逆転!! さらに木村拓がつなぎ、代打・西山が最近すっかり得意技のスクイズを決め、裏を永川が抑えて5-3で勝利。

実は9回のシーツの打席の時、

「かっとばせー椎津、椎津——、椎津——」とやってたら、ホームランが出た。

そこで調子に乗って、廣瀬のときは「ヒロスエー—」とやってたら、打球がライト前に落ちた。

ファンの祈りは(何の祈りじゃ)見事に通じた。



神宮で
勝利の
余韻を
楽しむ
8/13
C5-3S

ちなみに翌日は雨で中止となり、「神宮→広島とお盆に連続でカーブを観るぞ」計画は結局4試合の観戦にとどまった。市民球場の試合でも「椎津——」とやってみたが、二番煎じは効き目がなかった。

市民球場での2戦は横浜ベイスターズ相手で、初戦はデイビーが完投勝利でさっさと終わらせてくれたおかげで、しばらくぶりに一家4人で夜のお散歩（平和学習とも言う）ができた。



おなじみ、平和都市・広島風景。
わが家の子育ての旅を語るには欠かせないものだ。

2戦めはひどい雨で試合がやれる状態とは思えなかったが、今季雨でさんざん流している事情からか、中断するも結局強行、雨の降りも運も全てに嫌われたカーブは最下位横浜にボロ負け、正直「やらなくてもいい！！」ゲームだった。

ユニはね、球場だけじゃなくっていろんなところに着てった。元気出したい時や、勝負服！って感じだ。

娘の中学の運動会（6月）にも、当然来て行った。

そう、当然だよな。運動会だもんな。サッカーのユニとかだったら、フツーに着て歩いてるよな。

よし、父母の会会長としてのあいさつもあつち、着て行くか。

（最初に☺がすすめてくれたのが真相。私がイケイケな決断をする時、実は☺が後押ししてくれることはけっこう多い。元々私は控えめで内こもるタイプな上、ここ一番で強いスパイクを打てるタイプではないので、日頃から「乗せろ、盛り上げろ」としよっちゅう頼んでるところはある～小松の親分さんみたい～）。

壇上に立つ。バッチリ！目立った!! 大ウケだ。

1週間後に、認可保育園をつくる会の総会があった。

テレ朝の取材も入ると言うので気合も入る。

そう、当然だよな。運動だもんな。

ユニで行こう、ユニで！

「久米、見てるかゴルフ??」

私は待機児の親でも保育園児の親でもないし、保育室の保育士でもないの、この運動では超脇役・陰で支える立場のはずだ。そいつが目立ってどうする?? っつのはあるが、**運動はファッションだ!!**

（↑これも☺の請け売り）

ま、看板選手である新井でも前田でも黒田でも山本浩二監督でもなく、チームの中でも「いてよかった、便利屋」的なキムラのユニってことで許してもらおう。

私は前面に出る役回りではないので、「**こういう報道ではそんな恰好した奴は絶対に絵にしないだろう**」

——という計算も込みで、着て行きました。

（正確に言うと、午前の「幼保一元化」などをめぐる全国集会にもこのいでたちで出たのだが）

とっころが、映っちまいやんの!!

ドヒャー、笑える。

今の報道って何も考えてないのとちゃうか??

おまけに「待機児が多いから認可保育園を作らせて」という総会なのに、取り上げ方が

「保育園が足りない」→「幼保一元化で解決すべき」→「幼稚園には調理室がない」→「調理室必置規制をなくすべきだ」という方向へ誘導するひどい内容！

（経緯を知ってる人には誘導見え見えでも、知らない人にとっては「そういうものか」と取れてしまう）

総会参加者への質問が

「はいれない人がはいれる」ことと「調理室」を天秤にかける次元の低さ。

そりゃ「保育園が足りない、つくる」集まりに来てる人たちなんだから、「まず入れないと困る」って答えるさ。調理室がない保育園ではまずいと思ってても。

しかもその質問に対して「はかりにかけられない」と的確に答えた母親のコメントは、放映されていない。（まあメディアという権力の意図を看破し、一言で斬った発言がお気に召されるわけではないが）

ユニでお出かけ

報道の話は別に書くのでひとまずおいといてだ、とんだケチはついてしまったものの、それから私はここって時、どうにもしんどい時、自分や周りの気分を盛り上げたい時にユニを着て出かけた。

小さい頃から制服なんてものは大嫌いな私だが、
「好きなもんは違うで」というのが一つと、
羽織袴共々、「身を助ける」「翼となる」「後押ししてくれる」「時には目立つゆえに目立たなくしてくれる」効用もあるんだと、おじさんは気づいたのでした。



溺れぬよう、驕らぬようには気をつけたいが。

(しなやかしなちゃん ◡)

私が好きな、「トリック」がかすむほど、おもしろいドラマが出てきた。ご存知クドカン(宮藤官九郎脚本)の「マンハッタンラブストーリー」だ。前評判はすごくて、さすが、クドカン?って感じだったよね。

しなちゃんは、「木更津キャッツアイ」がすきで、よくみていたようだけど、私はよくノリがわからなかった。どこがおもしろいんだろう??といつも思っていた。もっとも、真剣にみたことはなく、何かしながら、って感じだったけど。

今回の「マンハッタン」は 10:00 からやっていることもあってか(私は遅い時間の番組が好き??)、じっくりみれることが多くて、はまっています。ケロちゃんが、ビデオを撮っておいてくれるし。「トリック」のあとに続けて見れるし、ってこともあるのかも。単なる業界ネタっていえば、それまでなんだけど、役者の使い方は、おもしろいと思うよ。キョンキョンなんか、以前やっていた、3人の奥様が恋愛するドラマなんかより、ずっと持ち味出していて、いきいきしてやっている、って感じ。よかったね、キョンキョン。まだ、さびていなくて。そういえば、「ピンポン」も、この前テレビでやっていて、あらためてみたけど、おもしろかったな。何が一番びっくりしたかっていうと、主役の子は、ずっとココリコの田中がやっているのかと思っ

ていた。知らなかったよ、あれが、窪塚だったなんて。でも、私はどちらかというと、スマイルをやっていた子の方が、好みだったけど。

と、だんだん、台本を誉めているのか、役者の使い方を誉めているのか、わからなくなってきたぞ。しかし、クドカンって、同業者だったのね。それも、そうか。うーん、商業劇団、がんばっているなあ…。(純粋なテレビタレントが、減ってきたって、こと??)

てんこ ◡

(5pからの続き)

繰り返し言うが、私はいわゆる「言葉狩り」を支持する立場にはない。

『父兄』をとやかく言うのなら『父母』だってひとり親家庭に配慮が」という意見もあるかもしれない。

だが私はそれはまた別次元の問題だと思う。

確かに父のいない、母のいない、あるいは両方いない家庭も、さらに言えば家庭というものを持たない子どももいるだろう。人によっては保護者を一般に「父母」と呼ぶのが不快な人もいるかもしれない。

だが、私は「父母」という言い方はする。そして「父母」というのは父も母もいる家庭を限定して指す言葉ではないとも認識している。さらに言えば、私が生きてきた中で出会ってきた何人もの「ひとり親」と言われる親から私が感じ取り、受け取ってきたものは(「全員の」、「全部」という意味ではなく「強く」、「多く」)、**彼女(彼)たちが「父であり、母である」**

ということだ。

それがあべき姿か否か、本人たちが望むものであるか否かは別として、「生活している現実」として。

その辺をさらに深く論ずると、「ジェンダーがうんだらあ」という次元の話になってくると思うが、それをここで容易に語ることは到底不可能なので、ご容赦願いたい。さらに言えば、その辺も含み合わせて両者を同列に語り始めると、ジェンダーをめぐる右翼とフェミの果てしなく消耗し、相容れなく、不毛な論争の泥沼に引きずり込まれることになりそうなので、申し訳

ないけど、それは遠慮させてもらいます。

(言葉を吐いた数だけ、世界はその色に染まることを肝に銘じて。

1p GRAND SLUM 19

2-4p ユニでお出かけ ◡

5p 「父兄」という戦前の亡霊のような物言いの蔓延は、 ◡

6p 私の大好きなドラマが ◡

◡)

はじめにことわっておくが、私はいわゆる「言葉狩り」を支持する立場ではない。

言葉と言うのは時と場合、そして人により、あるいはとりよによって、どうにでもというわけではないがそれに近いくらいどちらにも転がりうるので、必ずしもいつも確かなものとして信じているわけではない。

だがやはり、一つの言葉の意味・単語の使い方に、重みを感じたり、もっと感じるべきだと思ふことも多々ある。そして言葉の使い方一つにも、世相の変化というのがあらわれるし、その言葉を吐くことによって、さらにそれは広まり、定着していくとも言える。

慣れた言い回しでも、その言葉の持つ「尾っぽ」をしっかり見ることは大事だ。

メディアの力を駆使しての、少なくともバブル後のこの10年余の新自由主義・新保守主義への凄まじい勢い・規模での世論の誘導は、ところどころでは知られることと思う。

人間として当たり前と思われていた権利もまるで「特別なこと・いけないこと」のように思えてきたり、逆に当たりの「節操・モラル・思いやり・手つなぎ」が、「古くて、無駄で、意味のない、いらぬもの」に思えてしまう。起こる出来事・事件も、巧みにその流れに都合のいいようにすり返られていく。

最近恐ろしいなと感じたのは、ここ1～2年で私の身の回りの大人、特に女性で「父兄」という言葉を多くきくようになったことである。

いや、単にそれだけなら別にちょっと不快なだけでそれ以上騒ぐことではない。

私は1年半前からいわゆるPTAの世界に足を踏み入れる機会が増えたからではないかって??

(※注：娘の中学校では「父母の会」というが、PTAである他校との付き合いも多々できるので)

確かに「体制べったり」「保守的」「地元の名士」の印象の強い(江東の場合、それほどでもないと思うが)PTAの人たちがそういう言葉を使うから多くきくのだ、ということならまだわかる。(好き嫌いとはかく)だが私が「恐るべし、ネオコン」と震えたのは、保育園の保育士※1さんや区の職員、組合をやっているような人たちの口から「父兄」という言い回しが聞かれることが頻りに増えてきたからである。

※1 説明は省きますが、わかった上でここではこの表現を使っています

「父兄」という言い方は「一般的だ」というかもしれないが、意味を考えれば、「家父長制」「戦前の価値観、世界観」、控えめに言っても「性別役割分業」の色彩の強い言葉だ。

「女性が偶々入ってないだけで目くら立てるな、単に言い慣れた物言いと言ってるだけだ、大半はそこまで考えて使っていない??」??

→「考えずに使っている」ところに落とし穴がある。

それはそうだろう。考えてたら使う言葉ではない。

「子どもと働く女性の権利を守り、命を育む」立場の人たちにとっては、ほとんど相容れない言葉だ。

男が(男だけが公式に)家庭の、地域の、代表として、権限を持つ者としてものが言え、扱われた時代、女は、あるいは子どもや弱者は、どのような地位・処遇にあったか。

政治や社会はどっちを見て、何を目指したか?

いや、男だけを責めているのではない。男の陰に隠れて、女たちもまた(全員の全部とは言わないが)、そのシステムを利用し、富国強兵に加担し、男たちを戦場に送り出してきた。

そこまでの含みを踏んだ上で、「父兄」という言葉を使うべきか否か、判断すべきだと思う。

私のこれまでの認識からすれば、皮肉や否定的な意味以外で公的保育や組合活動にかかわる人間が「父兄」という言葉を使うのは、無自覚・不用意であると思えない。


日々の暮らしに追われ、漫然と過ごす中で、影響を受けてしまう、知らぬ間に言葉に表れてしまう、ことは誰にでもあるだろう。

だが時々気をつけて、気がついていくことは必要だ。

その意味と、それ以外の私の好き嫌いも含めて言うが、これを読んだ該当する人は、少なくとも私の前で

「父兄」という言い方をしない方がいい。

何を言っても自由だし、言葉狩りをするつもりもないが、それでも言った日には私は心の中で「愚かな奴」と軽蔑するか、「お前はわかって言うのならそういう思想の持ち主だってことを俺に言いたい→俺にケンカ売ってるんだな(実際には買いませんが)」と思いつつ、脳内でタコ殴りにしてると思ってください。

「父兄」という戦前の亡霊のような物言いの蔓延は、ネオコン(新保守主義)の増長と無関係とは言えない。と思う しなやかしなちゃん 

「この10年間で誘導・シフトチェンジされてきているのは、一般人や保守層というよりむしろ、「進歩的」あるいは「民主的」な活動や運動にかかわる、また、そういう団体の主要な役にある人たちである」というのが私の実感から立てた仮説だ。

私の大好きなドラマが帰ってきた！！

しかも、ゴールデンタイムで。😊

「へえー、へえー、へえー」じゃないけど、夜遅くにやっていたものが、ゴールデンに帰ってくると、「昔のほうがおもしろかった」ってこと、

よくあるよね。

うーん、今回のトリックも、その類かも？まだわからないけど。ちょっとパワー不足を感じる。

そういう意味では、はじめのシリーズはよかった。

深夜じゃないとやれないネタってあるじゃない？「貧乳」「巨根」とか「にせもの」「ずれる」（こっちはそうでもないか）とか。

そこらへんのきわどいところは、どうするんだろうと思っていたが、今回も「なんぎよく2ごう」とかできてきて、まあまあきわどい（でも、こどもには、わかるまい）。「れんたろうの滝」とか「口上の月いわ」とかは、序の口だけど、今回は、「これぐらいしか出てこないのか？」という不安はある。

トリックが始まる前に、前回までの分を、全部再放送していた。それを、熱心に見ていたせいかな、人はこういうところでひっかかるのではないかな、という手口が、少しわかるようになった気がする。

（ところが、「名探偵コナン」はストーリーの展開が早いせいかな、ぜんぜん犯人がわからない。あれは、どうなんだ！ストーリー的に、謎解きを楽しめるものになっているのか？）

「うーん、どうでしょう？」

ここでしなちゃんが、つつこみをいれる。

「えっ、ちがうっていうの？」

「うーん、どうでしょう？」

「コナンの謎解きは、わかりにくいでしょう？」

「うーん、どうでしょう？」

「その点、トリックは、だましの手口がわかりやすいんだよ」

「うーん、どうでしょう？」

「まてよ、その「うーん、どうでしょ？」って、もしかしたら、本人は、答えを言わないの？」

「言わないで、相手に答えを言わせるの？」

「だとしたら、「うーん、どうでしょ？」って言われた人の主観とその時の精神状態で、その人が答えを出しちゃうんだよね。」

「でも、言い方にもよるじゃない？」

「だ・か・ら、「うーん、どうでしょ？」ということばは、なるべく抑揚のないように言ったほうがよくて、信者には、「よく当たる」という評判になるんだよ。」

「なるほどね。」

「カリスマは、こうやって作られるわけだ。」

話を元に戻そう。

「そういやあー、最近のトリックは、やたら田舎が舞台が多いぞ。田舎は、超常現象が起きやすいってことか？裏を返せば、トリックの空間を作りやすいってことか？「あんた いなかぎりー」」

「しかし、そろそろ都会での超常現象が見たいぞ。上田教授の研究室で起きた連続殺人予告事件は、凄みがあったぞ。」

「あと、やっぱり放送時間は、金曜の夜11:00にしてほしい。今回のシリーズになってから、まだリアルタイムでみていない。ゆっくり落ち着いてみたいので、金曜の夜に戻してほしいぞ。」



私はもちろん「トリビアー」は大キライです。何が「へえー」だ？品性やセンスのかけらもないし、それらを捨てても訴えたい・企みたい・ねじ込みたいものが感じられないか、もしあるならばそれがキライなものだからだろう。「実は日本はイラクで戦争やっています」→さあ、何へえだ？？